

刊行の辞

弊社は昭和三十九年（一九六四）六月、相模原市磯部で創業し、昭和五十八年（一九八三）麻溝台に移転しました。日相印刷という社名には、創業者である荒井徹・功兄弟の印刷業を通じて生まれ故郷相模原の名を日本全国に広めたいという願いが込められています。創業から五十三年の間、時代に先駆ける技術革新を心がけつつ着実に事業を続けております。

創業者兄弟の五代前の先祖に仙客亭柏琳という戯作者がいました。『相模原市史』にも柏琳についてかなり詳しく記載されていますが、その実際の作品は地元には伝わっていません。このため、兄弟の父の代から二代にわたり原本を探してまいりました。

この結果、柏琳作の草双紙『花吹雪縁柵（はなふぶきえんのしがらみ）』、『星下梅花咲（ほしくだりうめのはなざき）』、『紫房紋の文箱（むらさきふさもんのふみばこ）』の三作品が江戸で出版され、現在、『花吹雪縁柵』は慶応義塾図書館、九州大学図書館、国立国会図書館に、『星下梅花咲』と『紫房紋の文箱』は早稲田大学図書館、国立国会図書館に収蔵されていることが分かりました。

このため、『花吹雪縁柵』を慶応義塾図書館収蔵本（全六巻中、五・六巻を欠く）、破損部分は、国会図書館収蔵本で補填し、『星下梅花咲』と『紫房紋の文箱』を早稲田大学図書館収蔵本により翻刻する計画を立て、それぞれの図書館のご教示に従って手続きを行いました。また、翻刻につきましては井上裕子先生にお願いいたしました。

しかし、その後、専修大学図書館、立命館大学図書館にも収蔵本があることを知り、専修大学図書館に収蔵されている『花吹雪縁柵』が全六巻完本であることが分かったため、これによって五、六巻を翻刻し、ここに柏琳の三作品をほぼ完全な形で翻刻することができました。

体裁は、三作品の翻刻を合本として一冊にまとめて製本しました。五〇〇冊発行し、親族のほか、相模原市、博物館、図書館、公民館、郷土史研究団体等に寄贈させていただきます。

本書が上梓の運びに至ったのは、ひとえに関係図書館各位の御指導、ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

郷土相模原出身の農民戯作者による作品を元の姿のまま世に送り出すことは、地域振興を目標にして事業を営む小社にとって大きな喜びであり、柏琳の末裔にあたる徹・功兄弟にとっては先祖供養の宿願を果たした思いを禁じ得ません。

この翻刻が、相模原の歴史資料に新たな一頁を加え、江戸時代末期の貴重な歴史遺産を長く後世に伝えるものとなることを願い、発刊の辞と致します。

平成二十八年十月

株式会社 日相印刷

代表取締役会長 荒井徹

代表取締役社長 荒井功